

1. 事業経緯

白山ICは北陸自動車道と石川県が整備する金沢外環状道路海側幹線を連結し、高速交通ネットワークを形成することを目的として地域活性化インターチェンジ制度を活用して整備しているICです。

2007年1月に石川県から国土交通省に対して連結許可申請を行い、地域の活性化、利便性の向上、国道8号などの交通渋滞緩和に資することが認められ、2007年3月に国土交通省から石川県に対して連結許可、中日本高速道路㈱に対して事業変更許可がなされました。2009年10月に工事に着手し、2012年4月21日に完成することとなりました。



2. 整備効果

① 周辺地域の交通渋滞の緩和

現在は、金沢西ICなどをご利用する車が国道8号に集中し、慢性的な交通渋滞が発生しておりますが、白山ICの整備により海側幹線などへ交通が分散・転換されることで交通渋滞が緩和され、渋滞による年間4.7億円の経済損失の削減が期待されます。

②北陸自動車道へのアクセス改善による物流の効率化

白山 I C 周辺の工業団地から北陸自動車道へのアクセスが改善され、時間短縮による物流の効率化が図られます。



③交通渋滞緩和による環境負荷の低減

白山 I C の整備は、北陸自動車道の利便性を高め、交通の円滑化に寄与するとともに CO₂ 排出量の約 830 t / 年削減に貢献します。

※ 830 t の CO₂ を吸収するためには、森林約 78 ha が必要となり、これは兼六園の森林面積 (約 6 ha) の 13 個分に相当します。